



萌木

5月号

～自尊・立志・感動～



調布市立第七中学校

校長 山田 勝

令和7年5月22日発行

地域の中での自分の立ち位置を意識して

校長 山田 勝

5月も半ば、梅雨の走りのような曇り空が優勢な中、本校では明後日の体育祭の取り組みが進み、はしうち教室では先週高尾山校外学習がありました。

また、年度当初の保護者会や部活動保護者会への参加や、調布市防災教育の日への協力などありがとうございました。

4月26日は、「調布市防災教育の日」でした。引き取り訓練や避難所体験なども含めて、生徒が「防災」について考える一日とすることができました。

1時間目の防災啓発講話では、防衛省自衛隊東京地方協力本部府中分駐所所長内田貴洋様を講師に迎え、実際に災害が起こった時を想定して自衛隊や消防・警察などの「公助」が来るまでの「自助」「共助」など防災知識を身につける学習をしました。避難所で小さい子の相手をするこも、給水や給食と同じくらい大切な「共助」であって、災害派遣時に助けられた、というお話などから、自分の身の丈に合った活動が大切だということも学びました。日頃から家族で発災後の行動について話し合う大切さなどについても大きくうなずいて聞いていました。

2時間目の「命」をテーマとした道徳では、学年ごとにテーマを決めて取り組みました。どの生徒も真剣に命について考えました。かけがえのない命を慈しみ、大切に大事にしようという思いを、改めて自分の心に問いかけてくれたと思います。

3時間目の「避難訓練」でも放送・先生の指示をしっかりと聞き、真剣に訓練に取り組んでくれました。避難訓練の校長講評でも防災啓発講話を受け、「自助・共助・公助」について触れながら話をしました。

発災時刻や状況によっては、中学生は地域の大きな「公助」が来るまでの担い手にもなりえます。この地域を離れて活動することの多い高校生以上の大人が戻るまでの間に、給水や声掛けなどできることの引き出しを多くっておける用意が防災につながるのではないかと思います。

避難所体験も今年度から全学年対象になり、多くの方が立ち寄っていました。前もって見て知っておく、それだけでも実際の時の安心につながるのだと思います。機会がありましたら、ぜひ体験をお願いします。

ともすると、防災グッズを買いそろえることだけで我が家の防災対策は大丈夫と、思い込もうとしている自分がいましたが、発災時の家族の目指すべき避難所やそこに至る経路の確認と想定される被害、避難所生活を想定した準備などに、家族と振り返る時間を持つことも必要なことなのだと思います。

被災時にこの地域で、と限定した想定での行動のとり方を話し合う時間を「調布市防災教育の日」を機会に作り、防災をきっかけに地域と自分の関係を見直してほしいと思います。